

1 8. その他病虫獣害の防除

1. 試験担当者

本場保護部長	伊 藤 一 雄 ほか
北海道支場保護部樹病研究室長	横 田 俊 一 ほか
“ “ 昆虫研究室長	山 口 博 昭 ほか
東北支場保護部樹病研究室長	佐 藤 邦 彦 ほか
“ “ 昆虫研究室長	木 村 重 義 ほか
関西支場 “ 樹病研究室長	紺 谷 修 治 ほか
木曾分場保護研究室長	浜 武 人 ほか

2. 試験目的

国有林野における森林害虫の発生に応じて、種類、被害、その他を調査し、適切な防除手段を構ずる。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

依頼を受けた病害虫類の同定、防除指導を行なうとともに、各関係機関からの情報や研究員の調査観察をもとに、道内の病害虫発生状況を整理、記録を行なった。

とくに主なものは次のとおりである。

1. 病害関係

1. アカマツ — キハダ — 葉さび病

被害状況、病原菌の生活史、防除対策がほぼ明かとなった。

2. ナラタケ病試験地の調査

上田大門における生態防除試験結果、土壌の理化学性を改善する方法を実施すれば、本病を防止できることがほぼ明かとなった。

3. ハイマツ病害

かんしゅ病他数種の病害があつて、ハイマツを枯死させていくことがわかった。

4. 青森営林署管内6 営林署におけるカラマツ先枯病の空中散布による薬剤防除予定地の実施計画について現地指導した。

5. 雫石、盛岡営林署管内のスギの被害、乙供、三戸営林署管内のアカマツの被害について、

現地指導を行なった。

6. 横浜営林署管内のアカマツ不成熟造林地のコブ病の調査を行ない、コブ病の被害が激しく、樹形の不良な原因は不良遺伝子の関東マツを導入したことに起因することが明らかにされた。

2. 虫害関係

オオスジコガネの生態と防除

ヒノキ幼令造林木を食害する新事例を明らかにするとともに、卵についての飼育実験を行ない、卵期間は平均23日(25℃)であることを明らかにした。

なお、依頼をうけて虫害鑑定、診断およびその防除対策指導に応じた件数は、多くはなかった。これは害虫の種名が一般に判別しやすく、また防除も、一般経済林においては戦後急に発展し、容易となったためと思われる。

それだけにこれらの依頼に応じたもののうちには、新害虫、あるいは新しい被害例などが多く、研究項目としてとり上げる上に重要な情報を提供することとなった。

4. 昭和45年度の試験計画

技術開発項目との関連により、一般会計によって実施する。